令和5年度　大田区立大森東小学校　自己評価　報告書

令和6年3月6日

○　本校の概要

○開校は昭和57年4月　令和5年度は開校42年目となる。　児童数135名（5/1現在）、 6学級、 サポートルーム拠点校。
○教職員数：管理職2名　教員数17名（時間講師も含む）特別支援教育専門員1名、スクールカウンセラー1名、事務2名、栄養士1名、用務主事2名、学校特別支援員1名、教員支援員1名、副校長アシスタント1名、読書学習司書1名。
○学校ある水田や学校園で地域の指導者の協力を得て、稲作づくりやケナフの栽培に長年取り組んでいる。
○今年度より英語学習に特化したOGC教育を取り入れた国際教育を推進し、多様性を認め合える豊かなグローバル感覚を身に付けた児童の育成に取り組んでいる。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	4	【保護者アンケート】 「学校は、これからの社会の変化にしなやかに対応する子供を育てる工夫をしている（外国語教育、ICT活用、体力向上）」と答えた割合	4：90%以上 3：80%以上90%未満 2：70%以上80%未満 1：70%未満	4 （93%）	○OGC（おおたグローバルコミュニケーション）の取組が始まり、国際教育を深めるため、英語専科教員やALTと連携し、外国語活動、英語の授業の充実に努めてきた。児童の外国語への理解の深まりや、意欲的に英語でコミュニケーションする姿が、授業から多く見られるようになった。 ○GIGAスクール構想に向けて、ICT担当教諭を中心として、児童のタブレットを授業中に活用することがさらに多くなった。年間を通して、ICTサポーターの活用や校内ICT研修を重ね、教員間での教え合いを日々行うことができた。今後も、全教員のICT活用能力を引き続き高めていく。	A	10	・教室に入ると全員のコミュニケーションがとても高いと感じられる。 ・OGC教育の取り組みの1つと思われるが、英語表記の掲示板が校内にたくさんあり、日常的に外国の文化にふれることができて良いと思う。 ・授業を拝見しても、ICTや外国語に力を入れている様子がわかります。 ・OGC、とても期待しています。ICTも今後益々重要となると思いますので、よろしくお願いします。 ・児童からも楽しいとの声を聞くことがあり、先生方の取り組みの良さが伝わります。 ・東小にしかない360°Mediaの活用で、習ったことを復習し、疑似体 験ができ、本格的なネイティブの発音で、授業を受けることで、身につけていく英語力は大きいと思います。将来役に立つ素晴らしい取り組みだと思います。 ・連絡協議会でOGCの取り組みを説明いただきました。最新の学習環境を整えられ学校をあげて取り組まれていることがわかりました。児童も国際色豊かで日々の学校生活の中で多様性を受け入れ力が育っていることを感じます。 ・昨年度360°Mediaのお話を聞きとても楽しみにしておりました。お手紙で実際の様子を知ることができました。大田区でもこれだけの多文化共生の地域はあまりないと思いますが、視覚を活かすことは、言葉の理解が難しい子も同じ様に心揺さぶる経験につながり、共感も生まれると思いました。環境が整いそれを活かせる先生方の工夫・発想がすごいと思いました。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	4					B		
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4：80%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 3：70%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 2：60%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 1：60%未満であった。	4							
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。	4					C		
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	4					D		
		OGCティチャーと連携して、児童の発達段階に応じた英語学習の充実と、英語でのコミュニケーション能力の向上を図る。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。	4							
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	**学習カルテ**を基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。	4	【児童アンケート】 「学習（授業）が楽しい」と答えた割合	4：90%以上 3：80%以上90%未満 2：70%以上80%未満 1：70%未満	4 （93%）	○年間を通して、算数の補習を実施できた。しかしタブレットを使用した方が学習効果がある児童と、プリントで学習した方がやりやすい児童がいると分かったので、今後はプリントによる補習も検討し、採点の際、効果的に直接指導・助言できるようにしていく。 ○「学習カルテ」に基づいた児童との面談の時間が十分に確保できなかった。今後は計画的に面談ができるよう補教体制を組み、学習カルテを十分に生かして、一人一人に合った個別支援を行い、基礎学力の定着を図る。 ○授業改善プランを意識して、授業を進めることができた。今後も引き続き改善プランに沿って授業改善を行っていく。	A	10	・楽しく学習できているとの回答が多い。学力の向上が伺える。 ・廊下に図工の作品や授業で学習した成果・書き初めなどの掲示物を見ると、目標が達成できていると思う。 ・わかり易く、楽しく取り組める授業を心がけていると思いました。 ・児童たちが楽しんで学習が出来ることが一番だと思う。 ・タブレットの導入により楽しく学べるのは良いが、苦手意識の強い児童も少なからずいるように思います。プリントでの検討をいていることに一人一人を見て下さっているとうれしいです。 ・児童一人一人の個性を認めて下さり、学習方法を変えて、指導していることは、とても良い事と思います。家庭と学校とで信頼関係も深まります。 ・児童の多くが「授業が楽しい」と答えていることは、とても素晴らしいです。児童一人一人に合わせて学習方法を工夫されている成果を感じます。 ・先生方のお話を聞いていて学校の縮図が保育園だと思いました。共通点が多々あり、保育園で行っていく事や伝えていくことは何だろうと改めて考えさせられました。全員の声掛けだけでは、伝わらない子に個別で声掛けしていますが、今までの対応方法だけでなくどの様にしたら伝わり理解できるのかを把握し、こどもに”わかった”という経験を積み重ねていきたいです。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4：学期に2～3回知らせた。 3：学期毎に知らせた。 2：年度間に1回は知らせた。 1：お知らせできなかった。	3					B		
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4：対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3：80%以上の教員が働きかけた。 2：60%以上の教員が働きかけた。 1：60%以下の教員が働きかけた。	4					C		
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	4					D		
		東京ベーシックドリル（算数）を活用し、基礎学力の向上を図る。	4：全教員が活用した。 3：90%以上の教員が活用した。 2：80%以上の教員が活用した。 1：活用した教員が80%未満であった。	4							
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	4	【児童アンケート】 「自分にはよいところがある」と答えた割合 （大田教育ビジョン目標値84%）	4：90%以上 3：80%以上90%未満 2：70%以上80%未満 1：70%未満	2 （78%）	○学級集団調査（WEBQU）の面談結果や学校生活調査を教員全体に周知して共通理解した。しかし、組織で対応する具体的な動きは十分には取れなかった。児童が健全な生活を送れるようにするために、児童の実態把握を確実に行い、生活指導夕会やいじめ不登校対策委員会などにて教職員全体で共有をして、組織的に指導にあたる。 ○各種行事や研究授業に限らず、普段の授業等、児童のあらゆる教育活動において、全教職員で意識して、児童の頑張りや良さについて認め、ほめ、励ます機会を多くもてた。今後も、年2回実施する取組「エールウィーク」を積極的に活用していく。 ○道徳教育推進教師を中心に、道徳授業の確実な実施及び授業改善を図ってきた。今後も児童の自己肯定感や自己有用感の向上を図るために、各学年の活動は勿論、学校の教育活動全般で一人一人の活躍の場を保証していく。特に、縦割り班活動（ふるはま遊び、朝の集会活動、縦割り清掃等）、委員会発表等の機会を積極的に活用し、頑張りに対し認め、ほめていく。	A	4	・自分の考えをしっかり発言する事が出来ている様に思う。 ・自分を客観的に見ることは難しいと思う。授業に取り組む姿などを見ていると育っていると思う。 ・様々な特色のお子さんがいることと存じます。個性を大切にして自己肯定感を上げられると良いと思います。 ・児童たちが、何か目標や興味のあるもの事を見つけるいろいろな体験・経験をさせてあげたいものです。 ・「自分の良い所」という指標でアンケートを取っても、いい評価は出ずらいのではと思います。例えば「協調性がある」ということは、良い事なのに、それと自己肯定感とひも付けしにくい。 具体的に、ほめる事で少しずつ自分がどんな人なのか、良い所を見つけてほしい。社交性、感受性、心が広い等。 ・他人と比べることなく、自分には良い所がある、得意なものがあると皆が思えるよう、様々な経験の場を大人が作ってあげたい。縦割り班活動があり、他学年の児童とも顔見知りで、自然と年下の子を思いやられる行動をとれることは、とてもほほえましいです。 ・一年生との交流に参加させていただきたき、間近で先生と子供達とのやり取りを拝見しました。今振り返ると目標の通りだと実感します。先生の授業での伝え方は、とてもわかり易く、メリハリがあり、子どもの発言や行動を肯定的に受け止め、言葉で返しているのを見て、勉強だけでない心をも育ててくださっている事が伝わってきました。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	3					B	5	
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4							
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4					c		
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4：必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3：必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2：必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1：必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4							
		各教科とOGCや学級活動などで、話し合い活動や会話を通して自他の良さや考えを尊重し合う態度を育てる。	4：全教員が取り組んだ。 3：90%以上の教員が取り組んた。 2：80%以上の教員が取り組んだ。 1：取り組んだ教員が80%未満であった。	4					D	1	
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	4	【児童アンケート】 「運動をもっとしたい」と答えた割合 （大田教育ビジョン目標値60.6%）	4：90%以上 3：80%以上90%未満 2：70%以上80%未満 1：70%未満	3 （88%）	○運動会や体育朝会などの体育的行事では、上級学年を目標として運動に取り組む児童の姿が数多く見られた。10～1月に行った「短縄」「持久走」「長縄」では、学習カードを活用しながら、意欲的に継続して運動に取り組む児童が多く見られた。 ○持久走の取組と併行し、大田区小学生駅伝大会の出場選手の朝練習の様子を見て、下学年の児童も「高学年のように走りたい」という意欲が高まる様子が見られた。 ○休み時間に外遊びをする児童が少ないことが課題である。今年は、児童が自発的に運動に取り組むような手立てについて検討し、体育委員会が今年度も「外遊びカード」を使った呼びかけをした。運動してみたくなる環境を整えたことで、休み時間に校庭で運動する児童が増えた。 ○毎年6月に体力テストを実施しているが、その結果を生かした体育授業の取組をもっと組織として行っていく。	A	7	・広い校庭を活かして伸ばしてほしい。 ・今一歩という感じですね。一緒になって考えていきましょう。 ・いろいろと取り組みを行っているようですね。体を動かす楽しさを子供達に体験してほしいです。 ・休み時間に校庭で運動する児童が増えた。すばらしい事と思います。運動会等のイベントを通していろいろなスポーツにも挑戦してほしいです。 ・子どもたちが考えたビンゴ形式の取り組みはとても素晴らしいです。ビンゴ埋めたくなりますよね。児童アンケートの結果も運動したい子が多いのは、成果が出ている証拠です。 ・地域には自然豊かな公園がたくさんあって外遊びには最適だが、体を動かして遊んでいるかどうかは不明。運動が苦手な 児童も個々のペースで　体を動かす取り組みを継続してほしい。 ・広くて立派な校庭で休み時間にあまり遊ばないという事に驚きました。今のご時世を思うと「仕方ない」と思わず、色々な角 度から工夫されている事に感銘を受けました。今年度自園でも園全体で運動プログラムに取り組みました。体を動かすことは、 楽しいという経験を保育園でも工夫し、積み重ねて行きます。 ・今後も継続してほしいと思います。その中で、少数の外で遊ばない子に対しての対策も検討してほしいと思います。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	4					B	3	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	4					C		
		児童の健康・体力向上に向けての取組を組織的に行う。	4：学期に1回以上行った。 3：年2回行った。 2：年1回行った。 1：実施しなかった。	4					D		
プラン5　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4	【保護者アンケート】 「子供たちにとって分かりやすい授業をしている」と答えた割合 （大田教育ビジョン目標値65.59%）	4：90%以上 3：80%以上90%未満 2：70%以上80%未満 1：70%未満	4 （93%）	○公開した授業の評価を、真摯に受け止め、授業改善に努めてきた。さらなる授業改善を図るために、今後もOJTの充実を計画的に行う。OJTの年間計画を年度当初に作成し、若手教員は自己の課題を明確にして授業を公開し、他の教員から指導・助言をもらう時間を設ける。また、主任教諭や主幹教諭は指導テーマを決め若手教員をはじめ他の教員に授業を公開する。公開授業後は必ず協議会を行い、全体に還元していく。 ○若手教員指導担当者と若手教員が毎週1時間以上の面談を通して、授業観察の評価や悩み事の相談などを行ってきた。今後も継続していく。 ○日常的に、お互いの授業を公開し、情報交換することで、よりよい授業づくりに努めてきた。今後も継続していく。 ○年間6回の校内研究授業を通して研究主題を追究してきた。来年度は1月の研究発表会に向け、年7回の校内研究授業や、研究テーマ、目指す児童像を意識して協議検討を重ね、更なる授業力向上に努めていく。	A	10	・ゆとりある環境を活かせる教育を進めてください。 ・校内・教室がきれいに整えられていることが、落ち着いて、学習に取り組み、成果をあげる第一歩だと思うので、良いと思う。 ・ICT活用、小グループでの指導などよく努力されていると思います。 ・とても良い取り組みだと思います。今後も継続していただけたら良いと思います。 ・授業を工夫されている事がわかります。 ・研究授業を重ねて、毎日忙しい中で、大変な事をありがとうございます。授業力向上とは、…難しい。面白いのが良いのか、話術が長けているのが良いのか。子どもたちと本気で向き合った授業・指導をされている東小の先生方は、素晴らしいです。 ・授業参観させていただき、電子黒板などを使い、今の時代に合わせた指導をされている様子が分かった。 ・単級クラスが故に大変な事もあるかと思いますが、逆に1学年に1人という事を活かし、校長先生・副校長先生はじめ学校全体で、1つの事に心が向いていると感じます。保護者のアンケートにもありましたが、先生方がとても温かく、その波長が子 ども達に伝わっていると思います。 ・気候変化に対応した行事（運動会等）、授業（水泳等）の計画（時期）を検討してほしい。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	4					B		
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4							
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4：月1回以上行った。 3：学期に2～3回行った。 2：学期1回以上行った。 1：実施しなかった。	4					C		
		ユニバーサルデザインの視点で、教室環境を整える。	4：全教員が取り組んだ。 3：90%以上の教員が取り組んだ。 2：80%以上の教員が取り組んだ。 1：取り組んだ教員が80%未満であった。	4					D		
プラン6　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4：月1回以上更新した。 3：学期に2～3回更新した。 2：学期1回以上更新した。 1：更新しなかった。	4	【児童アンケート】 「地域の行事に参加している」と答えた割合 （大田教育ビジョン目標値51.1%）	4：80%以上 3：70%以上80%未満 2：60%以上70%未満 1：60%未満	1 （59%）	○学校ホームページの東っ子ダイヤリー、東っ子ポスト、学年ページ開設等、学校の教育活動を保護者や地域に積極的に紹介することに努めた。 ○緊急時の連絡をとるための学校緊急連絡システムへの保護者の加入があまり普及していなかったので、個別対応もしながら加入者数を増やし、ほぼ全保護者の加入が済んだ。今後も未加入や転入の保護者に個別対応を継続していく。 ○今年度から多くの地域行事の開催が復活して行えた。飲食に関しては難しい面が残っているが、今後も児童が参加できる機会を増やしていきたい。	A	6	・登下校の挨拶ができて仲良くて微笑ましい。 ・学校と地域の連携が良く取れていると思う。 ・項目自体が難しいですね。様々なイベントで、地域の楽しさを感じてもらいたいです。 ・学校のイベントと地域のイベント一互いにお知らせ不足に感じます。地域の安全面から顔見知りになることが重要と考えます。 協力しますので前向きに行きましょう。学校緊急連絡システムへ私も加入したいです。 ・コロナ後ではあるが地域行事にももっと目を向け、参加できるとよい ・昔遊びやケナフの授業、お米づくり等、学校のご理解のおかげで子どもたちとの関わりは結構あるのではと思いますので、地域側としては、ありがたい。いつもありがとうございます。学校緊急システムも外国の方も多いのに個人的に登録をうながす等努力していただきありがとうございます。 ・連絡協議会で、地域の方やスクールサポーターの方が子ども達のために色々な活動をされていることがわかりました。コロナで地域行事などの中断がありましたが、また連携を深めて共に子ども達を見守り育てていけると良いと思います。 ・子どもも保護者もスムーズに学校に慣れることが保育園の役割の1つだと思っています。公立保育園では、コドモンアプリを使用し、園だより等の配信・アンケート回収を実施しています。 小学校でもアンケートはQRコードを使用していることを伝え、紙ではない媒体に少しでも慣れる様依頼しています。保育園も更なる連携を取らせていただければ幸いです。 ・飲食を含む行事を、ぜひ増やしていってほしいと思います。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4：毎回情報を提供した。 3：おおむね情報を提供した。 2：あまり情報を提供しなかった。 1：情報を提供しなかった。	4					B	2	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4：学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2：年1回以上行った。 1：実施しなかった。	4					C	2	
		家庭学習や次の登校日の学習準備の習慣が身に付くように、家庭への啓発を行う。	4：年度間に3回以上行った。 3：年度間に2回以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	4							
		学校緊急連絡システムの加入やまなびポケット保護者版の活用を活発にし、学校と家庭の連絡が取りやすい環境を整える。	4：80%以上の家庭が「加入や活用した」と回答した。 3：70%以上の家庭が「加入や活用した」と回答した。 2：60%以上の家庭が「加入や活用した」と回答した。 1：「加入や活用した」家庭が60%未満であった。	2					D		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。